



京都社会人大学校

北近畿校通信

第53号 2024年5月

北近畿校運営委員会

事務局発行

☎080-2511-1751

2024年度 始まりました!



今年初めて社会人大学の受講生となられた26名を迎えて、総勢156名で4月をスタートしました。年齢層が高くても仕事や社会活動がんばっている方々も多いと思います。さらにこの大学が刺激となって、今後の人生をより豊かにアクティブに過ごすヒントになれば幸いです。

さて、4月の各講座では、ひとこと感想もたくさん書いていただきました。ありがとうございます。少しずつ、この通信に掲載させていただきます。同じ講義を聞いても、感じ方は人それぞれです。「そういう見方もあるのか」と参考にさせていただければいいかなと思います。

感想だけでなく、講座運営について気が付かれたことなどもお寄せください。快適な学生ライフ?を送っていただけるよう、毎月の運営委員会で改善点など話し合っています。運営委員会からのお願いをすることもあります。受講生のみなさんのご協力をよろしくお願いいたします。

運営委員、通年募集中です!

この社会人大学の運営は、ボランティアの運営委員で行っています。各講座の運営と毎月の運営委員会、並行して翌年度の講座の計画も行います。活動は交通費実費支給のみで無償ですが、どの講座でも無料で受講できます。「やってみようかな」と思われたら、受付に声かけてください!!

受講振替制度を利用される時のお願い

北近畿校では、登録講座を休んだ代わりに他の講座を無料で受講できる制度を用意しています。また、振替でなくても他の講座を1回1,000円で体験受講できます。

この制度を活用し他の講座を受講される場合は、資料の準備の都合上、できるだけ事前に(可能なら1週間前)お知らせいただくと助かります。

よろしく
お願いします



会場にご注意

ほとんどの講座は「市民交流プラザふくちやま」で開講しますが、現地開催講座など、会場が変わるときがあります。お間違えのないようご注意ください。

◆写真講座 5/21 6/18 は、三段池公園武道館会議室

◆歴史講座 5/15 7/17 は、福知山公立大学2号館

◆北近畿探訪講座 5/22 綾部・畜産センター

地図別紙参照

6/26 質志鍾乳洞公園駐車場集合

7/24 福知山市三和町うぶやの里ロード駐車場集合

4月の各講座の概要と、ひとこと感想から

(感想は一部を抜粋したのも
あります。ご了承ください)

◆時事問題講座 4月2日

「世界的視点から考えるウクライナ問題-現場の視点から」

講師:千田悦子氏



なかなか普段は気が付かない視点があることに「耳からウロコ」の感じでした。もう少しゆっくり話してもらったら…

①現地を知る方の話で信ぴょう性がある。②資料に地図が欲しかった。③時事問題のウクライナなのに、何か違和感があった。

講師の千田氏は元 UNHCR 職員として、アフガニスタン、ソマリア、ウクライナなど、世界各地の紛争の現場で働かれていたことから、その経験に基づく話は具体的で生々しい内容であった。

講義の前段は千田氏の生き方のベースとなった生い立ちからはじまり、なぜ UNHCR で仕事をするようになったのか、そこで何を見たのかという話。報道と現場で大きなギャップがあるという事実は現場を経験した者でなければ分からないことなのだろう。その上で、様々な問題を考えるにあたっては、得た情報の信ぴょう性、受け取った人の経験や視点によって理解・解釈が大きく異なってくるという話は、誰もが十分注意しなければいけないとの警告でもあった。

今回の講義のテーマは「ウクライナ問題」についてであったが、福島原発事故や紅麹など、様々な問題についても解説があり、受講者への問いかけもしながら、何が本質かを見抜く力をつけることが大事であると強調された。物事を考える場合、政府の立場、報道機関やジャーナリストの立場、その地の生活者の立場など多角的な視点を忘れないように意識したいものである。

報道や情報については、認知バイアスに留意しているつもりではある。しかし、これがなかなか難しい、ついつい確証バイアスにはまっている。今日の話はどうだ？こういう見方もあるのだという理解でいいのか？



寄席のルーツのお話し、初めてだったので、とても勉強になりました。

嫌なこと腹立つことの多い社会ですが、アッハッハと笑い楽しい時間でした。

寄席や落語の成り立ちが良く分かり、久々の生落語は楽しく聞かせて頂きました。

◆寄席芸鑑賞講座 4月11日

落語についてのお話を聞き落語を楽しむ

講師:桂三扇氏

昨年度に引き続き沢山の方が受講されました。いつもお世話くださっている桂三扇さんのご挨拶ではじまり、年間の予定、そして落語の歴史など、毎年お話しして頂いてますが、何度聞いても、「はあ そうでした、そうでした」と確認し、また新たな気づきもあり、たくさんの感動がありました。特に、江戸時代のおとぎ衆が、医師やお坊さん、仕えていた人達で、その中でも曾呂利新左衛門は逸話の多い人だった様です。その頃に「醒酔笑」という笑い話を集めた笑話集は大人気で今でもよく聞く落語の「平林」「子褒め」等が収められていた事に驚きました。初代落語家とされているのは江戸時代の大坂は米沢彦八、東京は鹿野武左衛門ですが、日本人の笑いのセンスは戦いの時代(戦国時代)にもあったことに感動しました。昔大うけだった落語が現代人にも大うけなのは日本文化でもあり、古典でもある落語が現代人にもがっつき笑いを提供していることが落語好きにはたまらなく誉なことだと感じました。

また、笑い話から被った武座衛門の悲劇的な人生や落語にまつわるエピソードのお話聞き入り、あっという間に時間が過ぎ前半が終わりました。

後半は三扇さんの落語「牛ほめ」と創作落語を聞かせてもらい、受講者さん達の笑い声がずっと続いていました。

◆写真講座 4月16日
座学「カメラのマークを覚えよう」
—カメラの機能確認—

講師：四方智基氏

第1回目は、次回からの撮影会に備えてカメラの機能確認。シャッタースピード、絞り、〇〇優先モードなどその意味と、自分のカメラではどのマークで設定するのかなど確認しながら、プラレールの動く電車を撮影してみました。それぞれにカメラ経験がバラバラですが、慣れない人もできるだけ撮影の機会をつくってもらえたらと、5月の講座までの間の「宿題」も出されました。設定を覚えるには、常にカメラに触ること！です。

この講座を受講しようと新しいデジカメを買って参加された方も。12月にこの講座が終わるころには「写真を生涯の趣味に」と思ってもらえたらうれしいです。



全くの初心者で不安な気持ちで参加しましたが、四方先生に気軽にお尋ねできる雰囲気でした。安心して参加しました。

デジカメを手にしてから、今まですべてオートで撮っていたので、ISOだのFだの、まったくわからないばかり。取説で知識を得て出直したい。

課題を出していただいてモチベーションが上がります。プラレールはスピード感がありとても難しかったです。



◆歴史講座 4月17日
高校で新しく導入された「歴史総合」について

講師 鈴木元氏

3年目となる高校の歴史科目として必修になった「歴史総合」についての話。

今まで世界史・日本史は別科目だったが、日本の歴史を学ぶためには世界史との関連で自国の歴史を捉える必要がある。新学習指導要領では、単に知識の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力の育成や対話的な学びを求めている。学校現場では担当教員の力量が大切であり、自己研修時間や集団的研修の場の保障が大事になるとのこと。

後半は歴史上の事実認識とその評価の話だった。例えば「広島・長崎への原爆投下で21万人もの命が奪われた」という事実は世界共通の事実認識となっているが、その解釈や評価は分かれ先の展望も異なってくる。

何が問題となっているか、お互いの歴史認識の共通化への努力が必要になる。とりわけ近隣東アジア諸国との関係では、立場の違いを理解し、他国の模範となるような解決方法を探っていくことが大事ではないか。

歴史は暗記科目ではないということ。アメリカでは事実に対し評価をいくつか提示し、学生が集団討論をする授業もある。フランス・ドイツでは共同歴史教科書を使用している例もあるという。

これからの新聞報道等、見方考え方が少ししっかりしたかな？と思います。

45年前、世界史の授業がありましたが苦手でした。今になって毎日の様に報道される世界中での紛争を目にすると、それぞれの国の歴史を知ることが大切だと感じました。

歴史教育をする先生の力量が大切だと思った。特に現代史は未来のためにも最も重要なことだと思った。

◆北近畿探訪講座 4月24日

「質志鍾乳洞付近や大原神社周辺の地質や地層」

講師：小滝篤夫氏

2024年度北近畿探訪講座を受講いただきましてありがとうございます。地学、気象学、生態学系、企業訪問地元経済に密着した講座としてとりくんでまいります。

さて1回目は丹波山地の地層や地質についてです。私たちが学生の頃に学んだ丹波山地は中国山地の東端に位置し、地層としては古い方に属するので、大きな山もないが大きな地震も少ない、と言われたことを記憶しています。本当にそうなのか。この丹波山地には、公表されている断層は決して少なくはありません。4月27日付京都新聞社説で「花折断層の被害」という記事が掲載され、主に京都市内の被害について述べられています。府北部のインフラ被害も指摘されています。

本講義では丹波山地の生い立ちと活断層について学びましたが、前半では地球の誕生から生命が生まれた経過まで学び、その中で、質志の石灰岩は熱帯地方のものですが、どうしてここにあるのか説明してもらいました。

6月の講座では、現地の質志鍾乳洞へ行って4月の講義を確認しながら学びます。福知山、綾部からは少し遠距離ですが、お待ちしております。

小滝先生のお話がとてもよくわかりました。質問にも丁寧に答えていただきました。

これまでR173を走るたびに、何故ここに鍾乳洞があるのかと思っていましたが、丹波山地の生い立ちからのお話を興味深く聴きました。中丹地方は地震の心配はありません、とよく聞いていたのですが、活断層の存在からそうではないことがわかりました。

高校で習った地学以来、久々に頭の中に地質についての血が流れてきました。

◆漢字学講座 4月25日

「漢字の歴史」

講師：久保裕之氏



始まりました、久保先生の漢字講座。初めての方が半数以上で、遠くは京丹後から来られています。

まず、先生のお名前を、古代文字で表記されました。久（永遠に久しい） 保（子供をおんぶして大切） 裕（衣服の中に人の気が満ちている） 之（足を表し歩いている） 特に裕は、私の顔に似ている。夏になり帽子を被ると余計にと言われ、会場は笑いに包まれました。

初めての受講。資料がカラー刷りで見やすくお話しもわかりやすく大変良い講座です。漢字の成り立ちが少しずつ分かるような気がします。面白くて次回が楽しみになってきました。

漢字の歴史ということで、漢字を作ったのはだれか？

およそ4700年前、中国の蒼頡（そうけつ）が、鳥や獣の足あとを見て、文字を作ることを思いついたという。なんと蒼頡は、目が4つあったそうである（よく目が見えた）。

現在のように紙のなかった古代から近代までを見ると、字は亀の甲羅、青銅器、剣や楽器、木簡や絹にまで書かれ、紙の登場でやっと、楷書が書けるようになった。甲骨文字では、中国のお土産である亀の甲羅のレプリカを見せていただきました。ト（占い）の文字があり感動しました。

今の字が歴史をたどりながら聞けることでロマンに満ちた講座でした。漢字が生まれたとき、5000年前、必要になって生まれたのがよく分かったが、農民、普通の人たちが使うことはあったのか？ やはり役職についている人達だけだったのか？ それなら庶民が使うのはいつからか？

漢字は書いた時の書きやすさと読みやすさを求めて字の形が変わっていった。

「漢字は世界で一番長く使われている文字である。」今日もユーマアたっぷり、楽しい講義でした。